

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の多様な進路希望やニーズに対応した教育課程を編成する。</li> <li>基礎学力の定着を図るとともに、生徒が主体的に学ぶ姿勢や態度を養い、自己肯定感を育むための学習活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒の進路希望やニーズの把握に努め、教育課程の編成を図る。</li> <li>②わかる授業を実践し、基礎学力の定着を図りながら、生徒の学習意欲や主体的に学ぶ態度を養い、自己肯定感を育む教育活動を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教育課程について検証し、生徒の進路実現に結び付く教育課程の編成について見直しを行う。</li> <li>②指導と評価の一体化の視点から組織的な授業改善が図れるよう、校内研究授業や授業研究会を実施する。</li> <li>②ICT機器を活用した授業を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒の進路希望や実態を把握し、履修可能な選択科目等の見直しをすることができたか。</li> <li>②生徒による授業評価の各項目において、平均値が3.0以上となったか。</li> <li>②ICT機器を活用した教材の作成が進んだか。また、1人1台端末を活用できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①総合ビジネス科自由選択に生物基礎を設置した。</li> <li>②後期の各評価項目において、平均値は3.0以上の結果となった。</li> <li>③電子黒板が導入されたことにより、デジタル教材の活用が推進した。1人1台端末については、総合的な探究の時間等で使用するなど、活用する場をを広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①今後も生徒の進路ニーズを把握し、適切な科目の設置に努めたい。</li> <li>②一部の検定試験対策に重点を置いた科目では、生徒間でのコミュニケーションが少なくなっている。</li> <li>③電子黒板の活用、やデジタル教材の共有などを推進するための施策を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①資格取得が下がっているが、資格を取得することの重要性をアピールするとともに、FPを取り入れるのも一つの方法である。</li> <li>②授業評価の数値が上昇していることは、授業改善の成果である。</li> <li>③デジタル教材の使用は今後、必須である。ICT棟のPCの利用方法についても、検討してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①FPなど、新たな資格取得については、担当する教科と協議し、検討課題とした。</li> <li>②授業改善の効果が出現している点は確かであるが、引き続き、現在の評価数値を維持できるか課題になる。</li> <li>③デジタル教材・デバイスを使用する教員も徐々に増えている。すそ野を広げることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新たな資格試験に挑む際は、教員側の準備が必要である。</li> <li>②授業において、常に試行錯誤を繰り返して、生徒が理解しやすい教授法を模索する。</li> <li>③デジタル教材等のハードルはかなり下がっている。使用している教員の授業参観等を通じて、利活用する人を増やす取り組みを行いたい。</li> </ul>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の課題に応じた知識を身に付けさせ、個に応じた組織的な指導体制を充実させる。</li> <li>ビジネスマナー教育を大きな柱とし、基本的な生活習慣を身に付けさせ、生徒会活動や部活動を通し健全な人材を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒支援を充実させるために、生徒情報共有会のSC・SSWとの情報共有、外部機関との連携を行う。</li> <li>②基本的な生活習慣を身に付けさせ、生徒が主体的に取り組める支援体制を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①かながわ子どもサポートドックの情報を、スクリーニング会議で評価し、この情報を元に、外部機関と連携する。</li> <li>②年度当初に1年間の活動の流れを確認し、職員と生徒の連携を密にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①かながわ子どもサポートドックの評価を職員とSC・SSWと共有できたか。外部機関と情報を共有できたか。</li> <li>②各行事ごとにアンケートを実施し、達成感や充実感を読み取ることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①かながわ子どもサポートドックの情報をもとに7月、11月のスクリーニング会議にて評価を実施し、職員・SC・SSWで情報を共有し、外部機関との連携を模索した。</li> <li>②体育大会・文化祭のアンケートでは、達成感・充実感共に95%以上(少し得られた含む)であった。部活動加入率は、62～63%(延人数)。白鷗中学校との部活動交流を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①職員・SC・SSWによる生徒情報の共有を継続するとともに、外部機関との連携をスムーズに行えるよう、体制を充実させたい。</li> <li>②アンケート結果は、概ね良好だったが、行事の準備日程を早期に周知し、よりスムーズな運営ができるようにする。部活動については、引き続き参加しやすい活動環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①今後も組織的な取組及び支援体制の充実を図り、多様な生徒の支援をしてほしい。</li> <li>②学校行事(体育大会や文化祭など)が、生徒の学校生活に与えるものは大きい。今後、様々な制約等が考えられるが、生徒の自主的な活動を尊重して、できる限り充実したものにしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒情報共有会及びかながわ子どもサポートドックの情報をもとにしたスクリーニング会議を2回ずつ実施し、情報共有や外部機関との連携ができた。</li> <li>②学校行事に関するアンケート結果は良好であった。引き続き本部役員を中心に自主的に行動できるよう支援していく。</li> <li>②生徒の主体的な活動を支援し、状況の変化に対応できるように、他のグループと協働して取り組む。</li> </ul>	
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的・職業的に自立するために必要な能力や態度を、体験的な学習の機会を通じて育成する。また、キャリアの発達段階を意識した進路指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒一人ひとりがしっかりとした職業観や勤労観を身につけ、自らのキャリア形成について主体的に取り組むことができるように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①進路ガイダンス等で具体的な目標設定と効果的な講師選定を行う。</li> <li>・インターンシップ等を通じて具体的な職業観の育成を図る。</li> <li>・ICT等を使用し、細やかな情報提供を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①進路行事のアンケート結果から、生徒の充実感や進路意識の向上を図ることができたか。</li> <li>・ICT等を使用した情報提供がどれだけ進んだか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①3年進学希望者説明会を修正し適時配置した。また講師選定も配慮した。ICTを利用し、業者による講演動画や生徒への説明、説明会の案内、アンケートの集計、生徒への細かな指示も行った。基礎力診断テストをWeb入力方式にした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①インターンシップ報告会のアンケートでは、希望者が39%であった。更なるPRと協力してくださる企業の検討もしていく。</li> <li>ICT活用では、動画への対応やマチコミメールとの連携も含め、引き続き取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①進路実績については様々な取り組みの結果が、結びついている。特に就職に関しては、企業からの期待や評価が高く、信頼を得ているようだ。今後も、社会に出てから活躍できる生徒の育成に努めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①進路実績は一定の成果があったが、来年度は進学では制度の変更があり、就職では調査書と履歴書の様式が変更されるため、その対応をしっかりとしていく。ICT活用では、情報発信がスムーズにいかなかったことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①情報収集に努め、四月当初から生徒に情報提供するとともに、進学・就職の各説明会でも具体的な対応を伝えていく。ICT活用では、マチコミメールや連携Gとの協力も視野に、情報発信に取り組んでいく。</li> </ul>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との連携や協働活動を通じて、地域に根ざした学校づくりを推進する。</li> <li>本校のPR活動を積極的にを行うなど広報活動を充実させ、地域や近隣小中学校への情報発信に努める。</li> </ul>	<p>①地元自治会や小田原市など地域との連携を積極的に深めていく。</p> <p>②小田原市をはじめ、地元自治会や近隣の小中学校との連携事業に参加し、様々な場面で本校のPR活動を行っていく。</p>	<p>①海岸清掃ボランティアへの参加や自治会との交流を積極的に図る。</p> <p>②中学校の高校説明会や県西地区説明会に参加し、本校の魅力が伝わる広報活動を積極的に行っていく。</p>	<p>①ボランティアに参加した生徒や自治会にアンケートを実施し、満足度90%以上であったか。</p> <p>②各説明会で中学生や保護者にアンケートを実施し、満足度90%以上であったか。</p>	<p>①海岸清掃については、定期考査と日程が重なってしまい参加できなかった。</p> <p>②白鷗中学校との連携事業として、部活動交流を実施した。小田原支援学校との交流は、準備を進めていたが、実現には至らなかった。学校説明会では、本校のPRを発信したことで、本校への関心を高められた。アンケートにおいても90%以上が高い評価であった。</p>	<p>①海岸清掃については本校のみで実施となり、地域との協働作業が実現できなかった。全校生徒が参加できる企画を次年度に向けて考案していきたい。</p> <p>②小田原支援学校との交流は、計画のみとなった。次年度は授業と関連した交流など幅広い活動を考えていきたい。中学生に向けた学校説明会では、商業教育の関心を高められるような題材を次年度に向けて準備していきたい。</p>	<p>①ボランティア意識の向上は、今後の人生にも大きく影響するものである。今後も積極的に取り組んでほしい。</p> <p>②他校種との交流は積極的に進めてほしい。今年度の部活動交流、授業見学等小田原東をアピールするよい機会となっている。地域等を広げるのも一つの手である。</p>	<p>①年間を通して、海岸清掃など地域との協働作業を実現することができなかった。また、部活動などが積極的に地域貢献できる機会が少なかった。</p> <p>②近隣の白鷗中学校とは、部活動での交流など充実した活動ができたが、小田原支援学校との交流は実現できなかった。学校説明会では、本校の魅力をPRすることができた。</p>	<p>①全校生徒による地域との交流を設けるだけでなく、部活動での交流を増やし、生徒のボランティアに対する意識を向上させていきたい。</p> <p>②中学校との交流の場をさらに拡大するなど、他校種との交流の場を積極的に進めていきたい。また、広報活動の充実を図ることで、本校の魅力を更に伝えていきたい。</p>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害の際に、適切に生徒の安全を確保するための行動計画の策定および近隣と協調した活動を推進する。</li> <li>持続可能なPTA活動の在り方を模索する。</li> <li>ヒヤリハットから重大な事故等に繋がる可能性があるため、職員間のコミュニケーションを密にし、今まで以上に風通しのよい職場環境の構築を行う。</li> </ul>	<p>①火災、地震(津波)を想定した避難訓練の新しい形態を検討する。</p> <p>②職員及び保護者に負担の軽減が図れるようにする。</p> <p>③定期的に事故防止及び職員の不祥事等に対する意識向上が図れる施策を継続的に行う。</p>	<p>①災害想定や避難訓練の実施時間を見直す。</p> <p>②組織の改編、オンライン化を進め、継続的な活動ができるように検討を重ねる。</p> <p>③事故防止会議やG会議、教科会議等で職員への意識向上を図るための活動を、継続的に行う</p>	<p>①実施後の効果測定を行い、改善点等を見出す。</p> <p>②具体的に会合等数が削減できたか、オンライン化の推進がどこまで行えたか。</p> <p>③事故・不祥事が発生せず、職員が働きやすい環境であると評価できるか。</p>	<p>①津波想定避難訓練を実施するにあたり、DIGの研修を職員が受け、11月、12月に実施した。</p> <p>②PTAの組織改編については、PTA校内本部より慎重に行うようにアドバイスを受けた。</p> <p>③定期的な事故防止研修及び職員会議や朝の打合せ等を通じて、職員への啓発を行い、事故・不祥事は防ぐことができている。</p>	<p>①火災想定避難訓練は、5月に実施した。来年度は、体育大会の片付けの日程と別に実施をし、消防署を招いた訓練を実施する予定である。</p> <p>②PTAの組織については、PTA校内本部と検討し、来年度の課題としたい。</p> <p>③不祥事防止については、打合せ、会議等、機会あるごとに職員に指導しているが、今後とも未然防止のために継続して実施していく必要がある。</p>	<p>①防災訓練は、生徒の防災意識の向上のために必要なものである。自治会等地元と協働のもと取り組んでほしい。今年度は、運営面で準備不足の点があった。次年度は改善してほしい。</p> <p>②PTAの組織については全国的に話題となっているが、小田原東のPTAとして、よりよい組織となるよう検討してほしい。</p> <p>③定期的な研修会等を実施して、不祥事に対する職員の意識を高め、今後も不祥事に対する意識を高める取組を、継続して行ってほしい。</p>	<p>①今後も防災訓練を地域の方と一緒に進めていきたい。運営面での準備については、来年度以降改善していきたい。</p> <p>②PTAの組織改編については、本部役員と話し合いの結果、活動の縮小は行わなかった。</p> <p>③事故不祥事に関しては今年度も発生していない。定期的な研修及び情報提供が功を奏している。今後も継続して、不祥事等に対する意識向上に努める。</p>	<p>①防災訓練を火災と津波想定で行ってきたが来年度は、火山噴火の知識を深める取り組みを行っていく。</p> <p>②地域の小学校や中学校のPTA活動を参考にして取り組みを進めていく。小田原東高校のPTAの運営や取組を理解してもらえるよう努力する。</p> <p>③事故不祥事に関して、未然防止に努めるとともに、自分事としてとらえるための研修等の実施方法の改善を図る。</p>